

I 実践

1 研究主題

生徒の人権感覚や人権意識を育成するための教育活動の充実と人権教育の推進計画の工夫・改善

(1) 主題設定の理由

人権の基本にあるのは、一人一人の人間の尊厳である。そのため、「茨城県人権施策推進基本計画」に基づき、「教育活動全体を通して人権尊重の精神を養うとともに、差別や偏見をもたない児童生徒の育成」を目指している。そのための課題の一つが、「人権問題の理解については知識理解を中心とした学習であったことから児童生徒に人権感覚が十分身につけていないこと」である。そこで、教科や領域での教育活動全体で体験的な活動や話し合い活動を通して理解を深めることができれば、一人一人の人権に対する意識を高めることができると考えた。

(2) 研究のねらい

各教科、道徳、特別活動等の学校生活全体を通して、人権教育の充実を図り、人権尊重の精神の育成を目指す。

2 実践内容

(1) 道徳の時間における「人権問題」に関する授業（第1学年） 『本当の私、本当のあなた』

- ア 生活に関するアンケート結果(人間関係のつまづき)を読んで話し合う。
- イ 話し合いを通して「ありがとうメッセージ」を書き、感謝の気持ちを伝える。



(2) 学級活動における「人権」に関する授業（第2学年）

- ア 学習資料「人権に配慮したインターネット、携帯電話の使い方」を読んで話し合う。
- イ 話し合いを通して、「人権侵害」について考えたことをまとめる。

(3) 社会科における「人権」に関する授業

- ア 歴史…「さまざまな身分と暮らし」(第1学年)、「日本の中国侵略」「第二次世界大戦」(第2学年)などにおいて、人権について学習をする。
- イ 公民…「人権と共生社会」(第3学年)において、基本的人権について学習をする。

(4) 人権に関する知識を深め、人権を身近に考える様々な活動

- ア 全校生徒が人権について考え、人権メッセージを作成する。
- イ 人権作文や人権書道に取り組む。
- ウ 黒潮タイムに福祉コースの生徒が訪問する。
 - ・保育園や幼稚園で手伝う。(夏休み期間中)
 - ・一人暮らしの高齢者に手作りのプレゼントを渡し、話し相手になる。

・地域の高齢者施設「成華園」で交流会を実施する。

- エ ALTと異文化交流をし、他の国との違いを理解する。



【 交流会 】

(5) 3・11東日本大震災から学んだこと

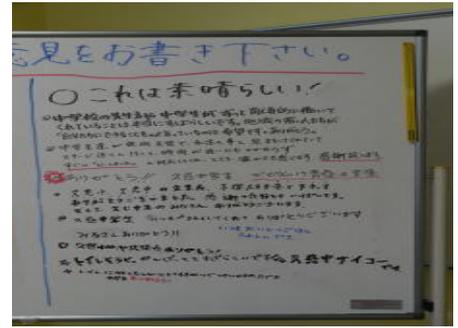
- ア ボランティア活動 「本校体育館が避難所となる」
相手の立場に立って行動することの大切さや、共に生きることの重要性を理解する。



【炊き出し手伝い】



【卒業生も活躍】



【感謝の寄せ書き】

- イ 黒潮祭での取り組み 「東日本大震災について」展示・概要発表（全クラス）
人と人、人と環境との関わり合いを調べることを通して、自分の生き方を探る。



【教室展示の様子】

- 1年生 ～2011. 3. 11に何が起きたか～
・日立市の3., 11 ・3. 11と今 ・津波
2年生 ～放射線について～
・放射能 ・原子力の力 ・原子力発電
3年生 ～明日に向かって～
・被災地の現状と復興 ・新たな自然災害に備えよ！
・自然エネルギー
生徒会長 ～平和の旅（広島）に参加して～

- ウ 地域との連携

復興支援絆プロジェクトの一員として「一緒にがんばろう」を合言葉に励まし合う。
<小中高合同で参加> <山形県> <岩手県>



【久慈味覚祭り】



【やまのべ舞祭り】



【同名の久慈中学校へ】

3 成果

- ・大震災では、被災したクラスメイトや避難所の人々を心配し、「私にも何かできるか」「みんなと一緒に活動したい」「地域の人達に協力して支援を行う」と『気づき』から『学び』へ、そして『学び』から『行動』への活動につながった。この体験を通して、人と人が支え合うことの大切さや命の尊さを学んだ。その結果、いろいろな場面で相手に対する思いやりのある関わり方について考えて行動できる生徒も増えてきた。また、自分でできること考え、高齢者の方と共に生きていこうとする態度も少しずつ育ってきた。
- ・各学年で行われている宿泊学習などの体験活動や探求活動の中で、人間的なふれあいを通して、協力し合い、友情を深めようとする態度が身についた。

II 今後の課題

教育活動全体を通して、人権に対する取り組みをさらに充実させ、生徒一人一人の人権感覚や人権意識を高めていきたい。また、校内研修の充実や人権コーナーの設置などを通して、教職員や生徒の人権に対する正しい知識や理解を高めていくことが大切であると考えている。